

第 11 回 朝来市粟鹿地域の「活性化」を考える会 活動報告

実施日：平成 25 年 3 月 3 日(日)

1. 活動概要

①. 目的

2010 年 10 月より粟鹿自治協議会と地域活性化に向けた議論を行っている。
今回は、朝来市が主催するまちづくりフォーラムに参加し、同市における「地域自治協議会」の活動報告会、専門家による講演会を聴く。そのことによって、とくに、専門家による講演では「見える化するまちづくり」について学習する。
なお、この活性化プロジェクトは長期的に活動していく方針である

②. 行程

京都発 10：33 「特急はしだて 5 号天橋立行き」に乗車

↓

福知山乗換 11：44、11：46 「特急こうのとり 5 号城崎温泉行き」に乗車

↓

和田山乗換 12：13、12：49 「普通寺前行き」に乗車

↓

新井着 13：07

協働のまちづくりフォーラムに参加

13：30～15：30 @あさご・ささゆりホール

新井発 16：34 「普通和田山行き」に乗車

↓

和田山乗換 16：50、17：44 「特急こうのとり 24 号新大阪行き」に乗車

↓

尼崎着 19：40

2. 協働のまちづくりフォーラムについて

①. 概要

少子高齢化、人口減少が深刻化するなかで、地域協働の基盤である地域自治協議会の役割を共有し、市民主体の地域づくりや地域協働のまちづくりを推進していくために、協働のまちづくりフォーラムを開催します。フォーラムでは、地域自治協議会の活動報告や、講演会を開催します。また、会場内には、市内地域自治協議会の活動の様子をパネル展示しています。

第1部 地域自治協議会活動報告会

●和田山地区地域自治協議会

「”どこも安全・いつも安心”な地域づくりを目指して」

●奥銀谷地域自治協議会

「防災マップづくりから見えてきたもの」

第2部 まちづくり講演会

高齢化や少子化が進み、集落単位でできていた地域の自治も困難なことが増えつつある中で、お互いに助け合いながら地域の課題を解決していこうと設立された地域自治協議会。今では、地域の課題を把握しながら地域の皆さんで力を出し合い、公共の担い手として活動が活発化しています。今後さらに地域自治協議会に対する期待が高まる中で、地域のみなさんの声を聞き、思いをかたちにし、みんなで力を合わせて活動するなど、地域の皆さんの参画が必要になってきます。そこで、地域の課題を把握し、意思決定に至るまでの合意形成の手法などを学びます。

●演題 「みんなの思いを見える化する地域づくり」

●講師 愛知学泉大学 教授 伊藤 雅春 さん

主催・問合せ先

●主催 朝来市

●問合せ 朝来市役所市長公室まちづくり課



3月3日(日) 地域協働のまちづくりフォーラムメモ @あさご・ささゆりホール

②. 協働のまちづくりフォーラム報告

1. 地域自治協議会活動報告会(全地域自治協議会の概要は資料参照) 各 10 分

①. 和田山地区

平成 23 年 4 月、暮らしをテーマにした地域まちづくり計画の策定

24 年度の取り組み：安全・安心・定住部会

青色回転灯者による冬期パトロール

合同「見守り活動」2 月末→270 名の児童と見守り隊とともに下校

赤色回転灯による交通事故防止対策 昼夜行方

防犯カメラ設置状況 駅北区 防犯立て看板の設置

県より設置に関する補助が下りる 24 年 10 月に完成

※安全・安心から定住を目指す

②. 奥銀谷(おくかなや)地区 旧生野町内の中でも東部に位置する、生野銀山

最も人口が少ない地区、高齢化率 41%

20 歳から 65 歳人口 464 名 2012 年 9 月現在

生野鉱山の影響で人口は爆発的増加、鉱山の閉山以降は年々減少傾向

現状認識として、地域安全マップづくり

各家庭に色分けし、要支援者であるかをマップ化している、社協の協力

23 年度から、高齢者安心生活支援事業(三河屋さん事業)

社会実験であったが、好評により自治協の責任で行う、安否確認も兼ねる
戦後の家族像は、核家族をつくりあげるものであった。地域の特性を生かしたものを取り込んでいきたい

2. まちづくり講演会

●現在、市民参加による「まちづくり」の支援を行う。

●1996 年、生野町の支援にも携わった経験

<コミュニティー政策の流れ>

1969 年 コミュニティー問題小委員会答申

「コミュニティー ～生活の場における人間性の回復～」

1970 年代～ モデルコミュニティー施策の展開 モデル地区 83 地区を指定

1980 年代～ 「まちづくり論」の台頭と実践 ワークショップの展開

1990 年代 ワークショップの技術が導入される。競争的・エリート的民主主義からの脱却、
参加民主主義を目指すデモクラシーの展開(洗練された世論)

→政治参加と政治的平等が洗練される状況

→熟議の必要性、無作為抽出による熟議

都市内分権制度、市民討議会の定期的・継続的開催、多様な人の意見を如何に取り込むか

事例①：豊山町町民討議会議 2011年度・2012年度 5年間

ミニパブリクスの実践例

総合計画を考える町民討議会議 くじ引きで参加者が決まる 2日間話し合う

2011年 朝から夕方まで徹底して議論 1時間話したら発表し、終了

2012年 公共交通のあり方→改善法などについて

無作為抽出なので、客観的に議論できる特定の人が意見することは想定されない。知らない人が意見することの重要性。

行政と住民の距離を少しでも縮められるか

→それによって、住民の意識が変化するか<仮説>

事例②；横浜市公田(くでん)町団地 NPO 法人おたがいさまネット公田町団地

買い物難民支援

交流拠点『いこい』を設け、活動を行う→団地住民以外にも運営に関与

談話コーナーの設置、毎週「あおぞら市」の開催、日用品の販売、NPOが買い取り販売している。売り切り制。宅配も行う。5円ほど経費を計上し、そこから利益を得ている

ミニ食堂の開設、毎週月曜モーニングの提供

事例③：地域公共交通の創出 神奈川県大和市

ワークショップの開催 自治会が中心となる

コミュニティーバスを自分たちで理想のバスルートを考える>2006年

1回目；交通不便地区について、市の施策では補完できない部分を担う

バスルートをグループで考えてもらい、発表会を実施 4グループ

2回目；実際にグループが設定したルートを走ってみた

3回目；予算検討 事例研究 試算を出し、実施するかを検討 >2008年

2010年から運行開始 ※動画上映 レコーダー音量注意

無料事業

神奈川県下では同様の取り組みが各地で実施 例)相模原市など

その他には、愛知県東浦町など

二階建て方式地域営農システムのイメージ ~多様な組織形態による生産活動~
農業従事者もそうでない人も関わる仕組み

→営農組合が多いとされる朝来市では参考になるのではないか。

事例④：防犯パトロールの提案 世田谷区の事例

見える化することとは？ 別添資料 8 頁 高齢者が多い

記録用紙を配布、提出、義務

用紙に番号を記入していく 月 20 人位が提出

ブロック別の実績を公表し、パトロールするブロックが少ないところを中心に回っていく。

「見える化」とフィードバックによって、「自主的マネジメント」が可能

空き巣が地域で起きた

空き巣の件数を記録することで、空き巣の傾向をつかむことに成功した。

起きたからではなく、次に起きそうなところに狙いを定める。空き巣の公表→空き巣犯への抑止力として、、、見かけない人には大きな声であいさつ

会員 80 名 アンケートの実施 情報発信と共有を積極的に実施

パトロール隊に加入している人は近所付き合いが普段から構築されている

<伊藤雅春先生の「地域自治協議会」に取り組む人たちへのメッセージ>

コミュニティー診断 町内会レベルの特徴診断

別添資料 1 頁→地域自治協議会用に作成、あくまで試案

一体感、参加性、事業性の 3 つの項目を設定

3 項目をさらに 3 つの質問で区分

地域と住民の距離感を測ることができる 平均化することで「まち」の特徴を把握

<おわりに>

●自身のコミュニティーへの関わりを知ること

●見える化、可視化することの重要性

→漠然としたイメージではなくて、可視化による地域の実態を知ることができる

さらに、活動のフィードバックすることによって、次の取り組みを考えていくきっかけづくり

<番外編>

安城市の取り組み

地域計画づくりが農誘致利用計画とともに行われる

農家の代表者だけでなく、多様な主体参画する例外的な取り組み

3. 今後に向けて

文責：法学部3年

3月3日(日)、朝来市まちづくり課より招待を頂き、市主催の協働のまちづくりフォーラムに参加した。このフォーラムは、毎年この時期に開催され、市内の自治協議会の活動報告と「まちづくり」の第1線で活躍されている方の講演会を拝聴した。フォーラムの概要は先に示した通りである。フォーラムを通じて、地域活動における住民の参加度や事業性、一体性について、アンケート調査を行うことで「見える化」することの意義を知ることができた。アンケートは手間がかかるとはいえ、地域活動の実態を知る上で重要な手掛かりとなるかもしれない。粟鹿地域での活動では、政策提言などがちゅうしんであり、地域の実情を理解する機会が殆どなかった。住民が「地域協働」に対するイメージ、実際に参画してみたいという「やる気」がどの程度のものかは判然としない。しかし、「可視化」の作業を行えば、いくらか住民の「思い」を知ることができらるであろう。

フォーラムでは、和田山地域自治協議会と奥銀谷地域自治協議会の活動報告も行われた。地域のことは地域で解決するという方針の下、防犯や地域の安全を守るために、様々な取り組みをご紹介いただいた。活動の中身も大事だが、何よりも「地域」の問題と認識して、それに対して取り組んでいる点が印象に残った。一方で、若者が中心となるような仕組みづくりも重要となってくるのではないだろうか。少子高齢化が年々進行し、活動の担い手が高齢者に偏っているようにも感じる。多様な主体が参加することを基本としている点からも、若者の参画は重要課題となっていくものと思われる。住民と支援職員(市役所職員)の協力も欠かせない。

今回のフォーラムを通じて、「地域協働」によるまちづくりのための手法と、他の「地域自治協議会」の取り組みについて知る貴重な機会であった。以下に、今後の検討課題について列挙しておく。

<検討課題>

- ・無作為抽出方式による、住民参加や可視化の重要性は理解できたが、アンケートをどのようにして実際の活動に反映させていくか。
- ・多様化する「思い」をいかにして調整していくのか？与布土地域でのヒアリングは、「自治」における意思決定過程の事例を検討する